



令和3年度「南信州元気な森林づくり賞」

及び乾しいたけ品評会の各賞が決定！

※敬称略

毎年、南信州地域での森林・林業の振興に貢献のあった方々を表彰し、その功績を称えています。
(新型コロナウイルス感染拡大により表彰式は中止となりました)

南信州元気な森林づくり大賞

認可地縁団体 伴野区(豊丘村)

伴野区では地域内で問題とされてきた、手入れされず放置された荒廃竹林の伐採・整備を積極的に実施しています。整備は区役員、地域住民、地権者らが、自らノコギリやチェーンソーを手に汗を流し、村道沿線を中心に、この10年間に2haを超える竹林を整備してきました。これにより、多くの道路日陰地が解消され、見通しが良くなり、生活道路・通学路としての安全性も向上し、地域住民の皆さんにも大変喜ばれています。伐採した竹は道の駅「南信州とよおかマルシェ」で人気の足湯を沸かす竹ボイラーの燃料として、搬出し、有効活用に努めています。



森林林業の部

下伊那山林協会会長賞



米川里山整備利用推進協議会(飯田市)
森林整備と搬出した木材を有効利用し、地域の活性化に取り組んでいます。

飯伊地区森林組合連絡協議会長賞



根羽村森林組合 山本班(根羽村)
年間1600m³の素材生産量を誇る効率的な搬出技術を有し、安全作業に取り組んでいます。

飯伊地域林業活性化協議会長賞



ツリーライフサポート株式会社(飯田市)
卓越した技術による支障木や危険木の伐採作業を実施し、依頼者の安心・安全な生活に貢献されています。

目次

- ①「南信州元気な森林づくり賞」及び乾しいたけ品評会の各賞が決定！……………P1,2
- ②未利用材の活用を進めましょう！……………P3
- ③山の中、クマにご注意……………P3
- ④森を守るミニ情報「松林を未来につなぎましょう」…P4
- ⑤森林税を用いた県産材利用の支援……………P4
- ⑥大平県民の森の紹介……………P5
- ⑦南信州 林道の紹介 林道弓の又線が開通しました …P6
- ⑧南信州 林道の紹介 林道赤石線が林道維持管理コンクール林野庁長官賞を受賞しました……………P6
- ⑨令和2年6、7月豪雨災害による山地災害の復旧状況……………P7
- ⑩南信州の竹林を巡る状況と取組……………P8,9
- ⑪3/1～5/31は春の山火事予防運動期間です……………P10
- ⑫緑化推進強調月間が始まります……………P10
- ⑬～お知らせ～
森林の立木を伐採するときは届け出が必要です！ …P10

森林林業の部

飯伊山林種苗生産者組合長賞



寺澤 晴實(高森町)

優良種子採取の場を提供され優良苗木の安定供給に貢献されました。

南信州特用林産振興会長賞



和合山守(阿南町)

多岐にわたる里山整備活動が地域住民に喜ばれています。

木づかいの部

飯伊木材協同組合理事長賞



有限会社 マルサン(松川町)

建築用途に利用できない材の有効利用を進め地域での木材利用の増加に貢献しています。

森林環境教育推進の部

下伊那山林協会長賞



阿南町立 新野小学校(阿南町)

地元のザゼンソウ遊歩道整備が地域に好評を得ています。

乾しいたけ品評会

長野県知事賞



金田 和由(阿南町)
品目：こうこ

長野県きのこと料理コンクール

優秀賞



佐々木 妙子(松川町)
きのこナゲットの鹿の子揚げ
なめこタルタルソース添え

ポスター等コンクール



国土緑化育樹運動ポスター
(中学校の部)
長野県緑の基金理事長賞
飯島 夕葵さん
(下條中学校)



国土緑化育樹運動ポスター
(高等学校の部)
長野県教育委員会賞
村松 涼さん
(阿南高校)



野鳥愛護ポスター
(小学校高学年の部)
長野県緑の基金理事長賞
川手 芽依さん
(千代小学校)



野鳥愛護ポスター
(高等学校の部)
長野県緑の基金理事長賞
高間 優那さん
(阿南高校)

未利用材の利活用を進めましょう!

南信州地域の森林資源は充実してきており、利用する時期を迎えています。伐採現場に行くとまだまだ切り捨てられたり、残置されている丸太を見かけるのが現状です。その残材を使った『スウェーデントーチ』の製作を紹介します。

このトーチの名前の由来は、フィンランドで昔から使われていた「かがり火」がスウェーデンに伝わり、三十年戦争(1618～1648年)の最中にスウェーデンの兵士たちが使っていたことから『スウェーデントーチ』と呼ばれるようになったとのこと。当時は、戦地で暖房器具や調理器具として使用されていましたが、現在ではその便利さやおしゃれさからキャンプ等でトーチやコンロとして活用されています。価格をインターネットで検索してみると2,000～3,000円と魅力的な価格で販売されています。

チェーンソーと材料があればどなたでも簡単に作ることができます。直径16～30cm程度で高さ40～50cm程度の丸太の小口を4～8等分し、切れ込みを入れるだけです。御自分の山や地区の山仕事で製作し、使って楽しんだり、農産物販売所等で販売してみてもいかがでしょうか。



山の中、クマにご注意

令和3年度は、県内外でクマによる人身事故が相次ぎ、南信州地域でも9月から10月に2件発生しました。それぞれ、有害鳥獣捕獲のわな見回り中、キノコ狩り中に襲われたというもので、いずれも重傷を負うという結果となってしまいました。

人里周辺での事故防止については引き続き強化を図るべきですが、今回はいずれも里から少し離れた森林の中で起こっています。

こうしたことから、森林・林業に携わる皆様、森林に親しむ皆様、山の中に行くときは「バッタリ遭遇回避」のため、鈴やラジオを鳴らし「人間がここにいるぞ」とクマに知らせ、事故を予防願います。

クマは金属音などに敏感で、気付いた段階で、人間との遭遇を避ける行動をとると言われています。



令和3年度の県内の事故発生場所等は、以下のような内容となっています。

- ・ 自宅近くの畑やお墓参り
- ・ 農業用水源の見回り
- ・ 有害鳥獣捕獲わな見回り
- ・ 登山、ハイキング
- ・ 溪流釣り、キノコ狩り

以上のような事故発生頻度が高い場所では特に、ご注意ください。

また、最近のコロナ禍で、単独行動的なキャンプや森林散策がブームになっていることから、クマを誘引してしまう残飯の管理など、事故防止に向け、施設管理者、利用者の皆様においては一層のご注意をお願いします。

さらに、冬眠期が終わり、3月になると子連れのクマなど、再びクマの活動が始まります。子グマを見かけたら、近くに必ず母グマがいますので、直ちにその場を静かに離れ、安全確保をお願いします。

森を守る三二情報「松林を未来につなぎましょう」



松は四季折々、味わい深い風景を見せてくれます。

昨秋は南信州のアカマツ林の恵み『マツタケ』が全国に笑顔をお届けしたと思います。松林は防災林や名勝地としても大切ですが松枯れが広がっている地域もあります。◆効果的な対策には発想の転換も必要です。守りたい松林を生かすため、それ以外の松を伐り、別の木に植え換える方法（樹種転換）です。松枯れは20世紀初頭に日本に持ち込まれた外来伝染病で、病原体（マツノザイセンチュウ）が媒介昆虫（マツノマダラカミキリ）によりアカマツ類に被害を及ぼす為、松林を保全するためには対策が必要です。被害林を放置すると森林の防災機能も低下します。被害初期では被害木の伐倒駆除が有効ですが被害が拡大した場合は、樹種転換等により、餌や感染源となるアカマツを減らすことが重要です。

被害はマツノマダラカミキリが高標高では越冬できないため標高900m以上の地域で少なく、900m未満の地域では被害が拡大しやすいため多いです。このため、被害が多い地域（標高900m未満）では、樹種転換が有効な対策の一つとなります。

◆樹種転換や間伐の有効性

①防災林としての機能が高まる(右下写真)

②面的な対策で低コストで被害防止が可能

③木材を森林資源として有効利用(左下写真)

※

○被害対策上、アカマツの伐採・搬出には適期があります。

○国や県の補助金を使える場合もあります。

○樹種転換には森林所有者等、地域の合意形成が大切です。樹種転換や間伐は森林組合等にご相談ください。

◆地道な被害木駆除と共に、攻めの防御（樹種転換）を続けて松林とその恵みを未来につなぎましょう。

注：本文の松林はアカマツを意味します。



樹種転換予定地
伐採したアカマツ林は、建築用材や、再生可能エネルギー等に有効利用されます。



樹種転換後
ヒノキ林は
(1)周辺の松林への被害拡大防止の緩衝帯
(2)防災林の機能の向上
(3)林が若返り温暖化対策に役立ちます。

森林税を用いた県産材利用の支援

長野県で暮らす子供たちに県産材を利用する意識を育む取組の1つとして、保育園や幼稚園など子どもが集まる場所「子どもの居場所」において、県産材を活用した①木のおもちゃや木製調度品（身の周りの日常道具）の設置、②施設の木造・木質化を、第3期（平成30年度～令和4年度）の森林税を活用して支援しており、令和4年度に最終年度を迎えます。これまでの4年間に、①17施設②6施設実施し、子供たちが木を身近に感じることができるよう空間が増えてきました。

令和3年度は、保育園でタオルかけ（写真左）や、町有林から木を伐採して作ったフェンス兼ベンチ（写真中央）を設置し、幼稚園では遊び場となる小屋（写真右）を設置等しています。

令和4年度においても、公募により事業の募集を行いますので、奮って応募して下さい！興味のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。



大平県民の森の紹介

大平峠県民の森は飯田市と南木曾町を結ぶ県道8号線沿いにあり、県民のレクリエーションや自然探索、自然や森林に関する学びの場、健康増進を図る場として、昭和56年に開設されました。

園内には遊歩道やキャンプ場などの施設が整備されており、自然散策やキャンプを目的に毎年、県内外から多くの方にご利用いただいています。

南信州地域振興局では、園内を快適に利用していただくために、施設を管理しています。令和2年度は、東屋の屋根を修繕しました。長年の雨風により、老朽化した屋根の一部を改修し、再び憩いの場として生まれ変わりました。また、令和3年度には、8月の豪雨により被災した園内車道の復旧工事を実施しました。車道に隣接する溪流が氾濫し、路面洗掘の被害に遭い、車両の通行が困難となるほどの甚大な被害でしたが、無事復旧し、安全に通行できるようになりました。

大平峠県民の森の開園時期は4月下旬から11月下旬までです。新緑から紅葉まで様々な自然の表情を楽しむことができます。ぜひ、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



新緑の大平県民の森



修繕前の東屋



修繕後の東屋



上流より下流方向を撮影



下流より上流方向を撮影



溪流が土砂により閉塞し、車道に越流。
路面洗掘が発生した。



溪流の排土及び路面への埋戻しにより復旧した。

南信州 林道の紹介 林道弓の又線が開通しました

阿智村の園原地区と浪合地区をつなぐ林道弓の又線が、立体ラーメンプレハブ栈道橋施工という難工事を最後に、令和3年6月に33年の年月をかけ遂に全線開通しました。この路線は、平成元年度から県営事業として開設し、森林整備の他、周辺観光施設へのアクセス道路、国道153号線の迂回路としての機能が期待されます。

現在、令和3年8月豪雨による被災により、残念ながら、通行不能となっている区間があります。迅速な復旧を、管理主体である阿智村と共に取り組みます。



立体ラーメンプレハブ栈道橋

南信州 林道の紹介 林道赤石線が林道維持管理コンクール林野庁長官賞を受賞しました

林道赤石線は、飯田市の東部「遠山郷」に位置し、森林整備や沿線住民の生活道路及び下栗の里等観光地、南アルプス登山道へのアクセス道として活用されています。

飯田市及び周辺集落による維持管理が評価され、令和3年度林道維持管理コンクールにおいて、林野庁長官賞を受賞しました。林道維持管理コンクールとは、林道の保全と通行の安全確保を目的とした林道の維持管理業務の推進と改善を促すため、維持管理状況の優秀な路線を表彰するものです。

飯田市では表彰を励みに維持管理に努め、さらなる通行の利便性と安全性の向上のため、林道改良工事を進めています。



林野庁長官賞状



赤石大橋



南アルプスを望む林道赤石線

令和2年6、7月豪雨災害による山地災害の復旧状況

南信州地域では、令和2年6月から7月にかけての「豪雨災害」により、管内の各地で山地災害、施設災害が発生しました。その内、保全対象への影響や緊急性等を考慮し、災害関連緊急治山事業などにより14箇所、県単治山事業により8箇所の災害復旧事業を進めています。令和3年12月時点で工事が完了した箇所について紹介します。

《豊丘村 地蔵ヶ沢》

村道上部の山林の一部が崩落し、下方の村道へ土砂が流出しました。

災害関連緊急治山事業により山林内の不安定な土砂を取り除き、簡易法枠工という工法により法面の保護を行い、早期の緑化を促すことで斜面の安定化を図りました。



災害直後の崩落状況



復旧工事が完成した後の状況

《喬木村 寺の前》

村道脇の墓地上部の山林が崩落し、墓地を越え村道まで土砂が流出しました。

県単治山事業により山林内の不安定な土砂を取り除き、墓地の境にコンクリートブロック積と筋工（鋼製網）を設置し、法面全体を伏工（植生ネット）により保護を行い、早期の緑化を図りました。



災害直後の崩落状況



復旧工事が完成した後の状況

南信州の竹林を巡る状況と取組

箆（かご）、竿（さお）など、日用品で竹を含む漢字があるように、かつては生活の様々な場面で竹が使われていました。

また、竹に匂で筍（たけのこ）というように、春にはタケノコが直売所に並びます。南信州には、東北信では珍しいモウソウチクがあり、太くて肉厚なタケノコが楽しめます。

しかし、竹製品の多くはプラスチックや金属製にとって替われ、「竹を伐って使う」ことが少なくなっています。



整備された竹林



モウソウチクのタケノコ

タケノコも、安価な輸入品が通年出回り、「自分で掘って採る」ことも少なくなっています。

こうして竹の利用が減った結果、多くの竹林が放置されるようになりました。

竹は地下茎で広がるため、植えなくても竹林が拡大します。

さらに、竹林を伐採しても、地下茎が残っていると翌年には新しい竹がたくさん再生し、放っておくと数年で元の状態に戻ってしまいます。

全国で放置竹林の拡大が問題となっていますが、南信州でも、道路への倒れ込みや農地への侵入、景観の悪化など、様々な問題が起きています。



雪折れ



畑への倒れ込み



伐採後の再生竹

地域の皆さんによる竹林整備

そのような中、各地で住民の皆さんが竹林整備に取り組んでいます。

道路沿いの竹林などで、伐採や、伐採した竹の破砕を行い、放置竹林の解消・拡大防止を図っています。



竹林の伐採



伐採した竹の破砕

竹を使う タケノコを食べる

再生力の強い竹は、伐って使うことやタケノコを採って食べることが、竹林の整備や整備された竹林の維持に繋がります。

竹は、樹木に比べれば伐るのも運ぶのも比較的簡単。軽くて丈夫、加工もしやすい。しかも、伐って使っても翌年には生えてくる。そんな竹はサステナブル（持続可能）な資源ともいえ、いまこそ活用が期待されます。

伐採した竹は、燃料、工芸・クラフトなど、様々に使われています。

掘りたてのタケノコを楽しめるのは春の限られた期間ですが、水煮にして学校給食に使っている事例もあります。

また、ちょっと伸びてしまった幼竹も食べられます。令和2年度には、メンマへの加工方法や料理レシピをまとめました。

SNS による情報発信しています。
下記 QR コードより開けます。



竹細工教室



門松づくり



メンマ料理講習会



竹パーティション講習会

竹林整備への支援

県では竹林整備をすすめるため、講習会や情報提供を行っています。また、竹林整備に対する補助事業もあります。

事業の要件等については地域振興局林務課にお問い合わせください。

市町村においても、伐採した竹を処理する破砕機の貸し出しや、竹林整備への補助を行うなど、地域の皆さんの取組を支援しています。



破砕機講習会



メンマづくり講習会

3/1～5/31は 春の山火事予防運動期間です

春先は降雨が少なく乾燥し、風が強く吹く時季ですが、農作業に伴う土手焼き、枯草焼き、枝焼き等屋外での火を扱う機会が多く、ちょっとした不注意で火災が発生しています。

南信州地域でも、近年は自衛隊が出動する大規模な山火事が発生していて、いずれも枯草焼き等の屋外での火の取扱いの不注意が原因です。

たき火や火入れなどの火気使用中はその場を離れないほか、使用後は完全に消火したことを確認しましょう。



緑化推進特別強調月間が 始まります

毎年4、5月の2ヶ月間を「緑化推進特別強調月間」と定め、各地で育樹祭などの緑化行事が開催されます。

緑の募金活動も実施しておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。



～お知らせ～森林の立木を伐採するときは届け出が必要です!

森林法に基づき、森林の立木を伐採するときは、伐採する90～30日前までに、市町村に届け出なければなりません。

届け出を行うのは、主に森林所有者です（伐採をする者と伐採後の造林を行う者（＝主に森林所有者）が異なるときは、共同で提出します）。

また、伐採が主伐（皆伐や択伐）の場合や、伐採後の土地を転用する場合には、伐採後や造林後に、「状況報告書」を提出する必要があります。

無届の伐採には、100万円以下の罰金が科せられる場合がありますので、ご注意ください。

なお、1ヘクタールを超える開発行為を伴う場合や、保安林で伐採する場合には、地域振興局への許可申請または届出が必要になります。

詳しくは、森林の所在する市町村または地域振興局（林務課）までお問い合わせください。



長野県南信州地域振興局林務課

☎0265-53-0425 ☎0265-23-3393

✉ minamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp

<https://www.pref.nagano.lg.jp/minamichi/minamichi-rimmu/kannai/soshiki/rimmu/index.html>

南信州地域振興局発信ブログ『南信州お散歩日和』やっています

<http://blog.nagano-ken.jp/shimoia>

南信州林務課

検索

2050 ゼロカーボンを目指す長野県のシンボルマークです